



2025年4月8日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名 取締役代表執行役社長兼CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問合せ先 取締役執行役副社長COO兼CFO 松井 亮介
(TEL. 03-6214-3600)

米国関税政策による影響及び業績見通しに関するお知らせ

株式会社ジーエヌアイグループは、米国政府より発表された関税措置に関する今後の影響について、下記のとおりお知らせいたします。なお、2025年2月14日公表の2024年12月期決算説明資料の33項記載の2025年度業績予想において、セグメント変更を行っております。下記に比較対象としての時系列データ及び追加説明を含む各セグメントの業績見通しを記載しております。

記

・各セグメントの実績及び予想値（2022年～2025年）

百万円	2022年12月期 実績 通期	2023年12月期 実績 通期	2024年12月期 実績 通期	2025年12月期 (会社予想) 2025年2月14日公表
製薬				
売上高	13,346	15,742	15,847	20,202
営業利益	3,735	4,054	4,003	4,640
創薬				
売上高	0	5,805	1,439	955
営業利益	-2,794	2,374	-2,700	3,982
メドテック				
売上高	2,428	2,841	5,169	6,159
営業利益	1,110	1,133	896	1,269
その他				
売上高	1,646	1,623	1,176	1,525
営業利益	-877	5,334	1,449	16,314

各セグメントの合算値と連結財務諸表における実績値及び2025年12月期の会社予想との乖離は、連結修正によるものです。

① 製薬

	2022年12月期 実績 通期	2023年12月期 実績 通期	2024年12月期 実績 通期	2025年12月期 (会社予想) 2025年2月14日公表
百万円				
製薬				
売上高	13,346	15,742	15,847	20,202
営業利益	3,735	4,054	4,003	4,640

本セグメントには主に有価証券報告書記載のGYRE Pharmaceuticals（日本語名称：北京コンチネント）の個別業績を掲載しております。同社の創薬・研究開発費も本セグメントに含まれております。2025年度は前期からの回復及び新たな治療薬の取扱い開始を通じて、過去最高となる売上高202億円、営業利益46億円を当社は見込みます。中国内部で完結している製造販売の事業モデルにつき、米中貿易関税摩擦を含む国際情勢による影響は受けない見込みです。

2025年4月8日時点、F351の進捗状況を含め、見通しを変更すべき事象は発生しておりません。

② 創薬

	2022年12月期 実績 通期	2023年12月期 実績 通期	2024年12月期 実績 通期	2025年12月期 (会社予想) 2025年2月14日公表
百万円				
創薬				
売上高	0	5,805	1,439	955
営業利益	-2,794	2,374	-2,700	3,982

本セグメントには主にCullgen Inc, Cullgen Shanghai, Cullgen Australiaが含まれております。当事業は研究開発に特化していることから、米中貿易関税摩擦による売上収益、営業利益への影響は受けない見込みです。2024年11月14日に開示しましたCullgenのリバースマージャーによる上場益の一部である「未払い利息の消滅に伴い3,995百万円をその他収益として計上」に基づき、2025年12月期は3,982百万円の営業利益見通しとなっております。

2025年4月8日時点、研究開発及びCullgenのリバースマージャーを含め、見通しを変更すべき事象は発生しておりません。

③ メドテック

	2022年12月期 実績 通期	2023年12月期 実績 通期	2024年12月期 実績 通期	2025年12月期 (会社予想) 2025年2月14日公表
百万円				
メドテック				
売上高	2,428	2,841	5,169	6,159
営業利益	1,110	1,133	896	1,269

本セグメントには主にBerkeley Advanced Biomaterials, Berkeley Biologicsが含まれております。米国内国会社が中国から一部仕入れております。30%の関税が発動され価格転嫁できないシナリオでは、約9百万円の営業利益押し下げ要因となります。新たに本日早朝に対抗措置として関税を50%とする旨の発言がありましたが、その場合の営業利益への影響額としては約15百万円となります。しかしながら値上げ対

応できるものと見込んでおります。2024年度の当事業部の収益性の低下は新規M&Aによる押し下げであり、今後相互シナジーを通じて開示しております売上収益目標の1億米ドルに向け事業展開してまいります。

2025年4月8日時点、メドテックとして2025年に過去最高となる売上及び利益更新となる見通しを変更すべき事象は発生していません。

④ その他セグメント

	2022年12月期 実績 通期	2023年12月期 実績 通期	2024年12月期 実績 通期	2025年12月期 (会社予想) 2025年2月14日公表
百万円				
その他				
売上高	1,646	1,623	1,176	1,525
営業利益	-877	5,334	1,449	16,314

米中貿易関税摩擦により直接的な売上収益、営業利益への影響は受けない見込みです。しかし本年の特殊要因と致しましてCullgenのリバースマージャー上場日の終値により、上場評価損益が営業利益として反映されます。

2025年4月8日時点、Pulmatrix社の株価が会社予想前提を上回って推移していることから、またCullgenのリバースマージャーを変更すべき事象が発生していないことから、見通しを変更すべき事象は発生していません。

当社独自のグループ会社運営体制により、地政学的なリスクが軽減され、金融市場の混乱に対しても以前より強靱な回復力を備えるよう設計されています。3月27日に開催された年次株主総会において、CEOのDr. Ying Luoは、2025年には製薬、創薬、メドテックの全ての事業部門において、当社のファンダメンタルズが向上する見込みであると述べております。本日2025年4月8日現在、その見通しを変更すべき事象は発生していません。金融市場は依然として不安定な状況にありますが、当社は引き続き「患者の皆様へ新たな希望を」というビジョンのもと、F351をはじめとする新薬を待ち望んでいる患者のため開発を着実に進めて参ります。

現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、今後の経済状況や市場動向の変化等により、実際の業績は予想と異なる可能性があります。今後も状況の変化に注視し、適宜情報開示を行ってまいります。

以上